

取組のポイント	誰もが利用しやすく、協力しやすいネットワークづくりで、安心・安全にひとり外出できる地域(見守り体制)をつくります。
自治体名	加東市 (事業名:加東市ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワーク事業)

(平成28年9月30日)

人口	総人口(40,238)人	65歳以上人口(10,158)人
高齢化率	(25.2)%	介護保険料 (5,500)円
要介護認定者数	(1,651)人	要介護認定率(16.3)%
日常生活圏域数(3)	地域包括支援センター数: 直営(1) 委託()	
認知症地域支援推進員数	(3)人	

地域の特徴

兵庫県の中央部・播磨地方の東側に位置する内陸市であり、旧加東郡の3町がH18年に合併して誕生。瀬戸内海性気候のため、年間通して温暖。中国自動車道(市内に2つのICがある)と都市間交通の幹線となっている国道175号が交差しており、道路交通の拠点となっています。

取組の経緯

警察によると、認知症の「見当識障害」により、行方不明になってしまう相談が寄せられており、市内で年間約30名の高齢者の捜索願が出ていることがわかりました。

今後、そのようなケースが増加すると考え、認知症の人とその家族を支援するため、日頃の地域のつながりを活かし、普段の生活のなかで見守り、声かけすることで、安心してひとり外出ができ、徘徊行方不明を予防できるまちづくりを目指し、「ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワーク事業」に取り組むこととしました。

準備をはじめ、平成24年からを開始し、現在に至っています。

主な内容

認知症(かもしれない)の人が安心・安全に外出することを支援するために、事前に情報を登録して頂き、見守り体制をつくるとともに、行方不明が発生したときには、早期発見に協力できる体制を構築しています。

ネットワークの広報・啓発、ネットワーク会議を実施し、ネットワークの見直しを行い、利用しやすいシステムが継続できるよう努めています。

ネットワークの目的

当市のネットワークには2つの目的があります。

ひとり外出見守りネットワーク

高齢者が安心して、ひとりで外出ができる環境(地域の人たちによる見守り等)をつくり、行方不明を防止するネットワーク。

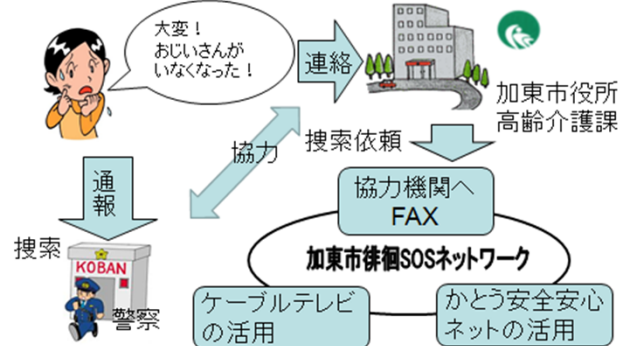


ネットワークに事前登録があった認知症高齢者等については、その人の地域とのつながりを把握し、本人や家族の了解を得た上で、散歩のルートやよく行く場所を確認するとともに、その周辺のお店や施設の人、近所の人などに見守りや声かけ、異変(様子がおかしい、いつものルートと違うなど)を感じた場合に家族への連絡をお願いするなど、一人ひとりの地域の見守り体制を検討します。

認知症高齢者等は、その人なりの理由があつて外出します。無理に外出を制限するのではなく、周りの人々に温かく見守られながら、安心して出歩くことができるまちづくりを進めます。

徘徊SOSネットワーク

もし行方不明になった時、早期発見を図るネットワーク。



徘徊による行方不明が発生した時には、捜索願に合わせて市高齢介護課にも家族から連絡を受け、その際に情報の内容と連絡範囲等の要望を確認します。

市高齢介護課は協力機関等に必要な情報を配信します。(メールまたはFAX)その他情報媒体でも情報提供し、市民が生活を通じた目配りによって行方不明者の早期発見に協力し、本人の保護が図られるよう努めます。(捜索は警察の主導のもと行われます。)

取組の仕組み

登録手続きの流れ

認知症の（かもしれない）人のご家族等が、加東市役所 高齢介護課窓口（加東市役所1階）又は、担当の介護支援専門員（ケアマネジャー）にご相談いただきます。

アセスメントに基づき、加東市ひとり外出見守りネットワーク個人票に記載

【事前登録内容】

氏名（旧姓）、生年月日、住所、緊急連絡先、身体的特徴（身長、体重、足のサイズ、ほくろの位置等）、最近の写真（顔と全身）、外出コース など



【裏面 見守り支援連絡票】

家族・親族、立ち寄り先協力依頼、店舗・近隣住民、介護サービス事業者 など



関係者で話し合い（ネットワークの目的と協力機関の確認）

本人と地域とのつながりを把握します。

本人や家族と散歩ルートやよく行く場所、外出の目的を確認するとともに、その周辺のお店や事業所の人、近所の人などに見守りや声かけ、異変（様子がおかしい、いつものルートと違うなど）を感じた場合に家族への連絡をお願いするなど、一人ひとりの地域の見守り体制を検討します。

登録

市高齢介護課

情報共有

市社会福祉協議会

民生児童委員

市防災課

加東警察、駐在所

本人・家族、介護支援専門員（ケアマネジャー）、地域包括支援センター、介護サービス事業者、民生児童委員、地域の見守り支援者、市社会福祉協議会などが参加

アピール①

「登録しやすいキット」

登録希望者に渡しやすいよう「加東市ひとり外出見守りネットワークキット」を作っています。マニュアルや個人票のほかにも蛍光ステッカー、キーホルダーやペンライト等のグッズが入っています。

普段の見守りと万が一の行方不明に備えます。

取組の成果

加東市ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワークの状況（H28年3月末現在）

- ◆ ネットワーク利用者総数：68名
- ◆ 登録事業者数：229カ所

アピール②「定期的な更新と情報共有」

事前に登録いただいた方は、担当のケアマネジャー等を通して、年1回登録内容に関して変更の有無を確認しています。また、情報共有もしています。

アピール③

ケアマネジャーのアンケートなどでネットワークの評価

利用されている方や関係者へアンケートを実施したり、ネットワークを利用された方のひとり外出状況を調査し、誰もが利用しやすく、有効な事業になるよう見直しを行っています。

アピール④ ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワーク会議



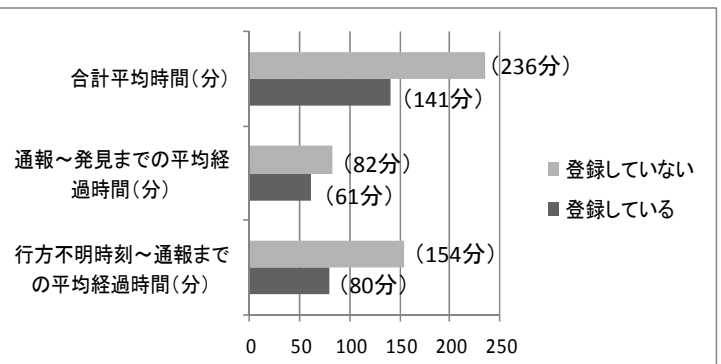
「啓発が足りない」「山間部など人のいないところは見守りできない」等の意見を頂きます。

その意見をもとに事業を見直します。

実施したアンケートやひとり外出の状況等を報告し、ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワークが効果的に機能するよう関係機関が連携を深め、情報共有、課題解決を図っていく会議を開催しています。

また、この会議は、関係機関だけでなく、どなたでも参加できるようにしています。多くの方から意見を頂き、より良いネットワークの構築に努めています。

認知症（の疑い）で行方不明になった当ネットワークを登録している方と登録していない方の検索時間の比較（市把握分）



アンケート結果や比較表をネットワーク会議で発表し、意見を頂くことでさらに良い仕組みづくりへ

今後の課題と展望

- ・当ネットワークの啓発を世代を問わず、実施し、子どもから高齢者までが協力者になる地域をつくる。
- ・近隣市と協力し、広域で連携を図れる体制をつくる。

